

放射性医薬品の投与支援装置「Bridgea DISPENSER」に “集液機能”を追加 —作業効率と安全性を向上

PDRファーマ株式会社(本社:東京都中央区/代表取締役社長:村上 雅人)は、本日、当社が販売する放射性医薬品の投与支援装置「Bridgea DISPENSER^{※1}」に、医療従事者の作業効率と安全性の向上を目的とした新機能(集液機能)を追加しましたことを、お知らせいたします。

本機能は「ライアット MIBG-I131 静注^{※2}」の神経芽腫の効能追加(2025 年 9 月 19 日承認)に伴い、複数本の製品バイアル(注射液等が入った容器)からの薬液抜き取り作業の負担と被ばく量を大幅に軽減するため、「Bridgea DISPENSER」に新たに追加された機能です。

【新機能の特徴】

① 薬液調整を自動化し作業効率と精度が UP

「Bridgea DISPENSER」を使用して複数本の製品バイアルから薬液を抜き取りし、任意の液量をバイアル又はシリンジにまとめることができます。これにより、医療従事者が手作業で行っていた複数本のバイアルからの薬液調整作業を、「Bridgea DISPENSER」が効率的かつ正確に行います。

② 投与作業の安全性が向上

「Bridgea DISPENSER」を使用することで、煩雑であった投与準備を簡便化し被ばく量を低減できることから、放射性医薬品の投与作業における安全性の向上に寄与します。

当社は、放射性医薬品の供給にとどまらず、情報管理の課題解決にも取り組み、データやデジタル技術を活用した医療 DX と組み合わせたトータルソリューションを提供しています。今後も、安全で効率的な核医学診療の発展に貢献し、より高品質なサービスを提供してまいります。

PDRファーマについて

PDRファーマ株式会社(2022 年ペプチドリームグループに参画)は、1968 年に事業を開始して以来、放射性医薬品領域の先駆者として、放射性医薬品等の研究開発・製造・販売等を通じて高品質な放射性医薬品を提供してまいりました。現在 22 品目の放射性診断薬(SPECT 診断薬および PET 診断薬)、及び 8 品目(3 製品カテゴリー)の放射性治療薬を国内で販売しております。さらに、PDRファーマとペプチドリームは国内およびグローバル・マーケットに向けた放射性診断薬、ならびに放射線治療薬の広範なパイプラインを開発しています。詳細については、<https://www.pdradiopharma.com/>をご覧ください。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

PDRファーマ株式会社 総務部 村上

E-mail: s-info-hq@pdradiopharma.com

※1 主に、医薬品製造会社から供給される放射性医薬品の専用容器内のバイアルからリクエストに応じた薬液を抜き取り、必要な薬液量に調整する装置。

※2 本剤は、副腎髄質ホルモンのノルアドレナリンの類似物質である 3-ヨードベンジルグアニジン (MIBG) に放射性ヨウ素 (131I) を結合させた医薬品であり、ノルアドレナリンと同様のメカニズムで腫瘍に特異的に取り込まれ、131I から放出される β 線によって腫瘍細胞を傷害し、治療効果を発揮します。